



優曇華物語

13
189
4



於
189
4

優曇華物語卷之四上

江戸

山東軒主人編

第七段

荒熊弓児が死をうて生をなす事

其時弓児巖の上の物音を穿つけ人の来るやあぐん折あしして手を
 引めて背後の方をあふぎえぬむ一隻の荒熊前の爪後の脚玉塵を
 蹴起し樹根岩稜をふと越てそらうふさう取上り坂をじに跳下り
 げれ今死んぞ覚悟さふとる身あがらもささめめあぬ猛獸の勢ひ
 おちそれとてかきつれ木蔭ふまかふりる折しも岨づみひま一個の
 旅客笠をいつかき雨衣を披両刀をおひ雪はあか降乱て木蔭へ
 うち埋ると笠ふおせき生袖ふもひてまきみ葉が彼あふ熊の
 ららにゆきあひ大お怒り急に身を避んとするに路せぬじてのうら



優曇華物語

つきかゝりあけぬ。せんまへあく。肩おけりたる包をとりて木の枝よりちりけ
笠をとりて突月おとし。志匠の竿の類で雪の深淺をさぐる者やあらん。熊
のあま木を七尺をうりひきりて乃のかつらに立ちまぐるを幸ひ。ひき
きて小脇ふかへ挟み。力を巖に倚て相待りる間もあらずせむ。熊走り
来ていつさん小飛かぐる。旅人、おをえて。いぞがじく力を閉。熊の背後
めぐる出りも。熊、忽ち身をむる。久し。をあんといふ。雷の、とく。猛勢がひ
をゆて再び飛ぐる。旅人、一身かろして。右におありと見え。左に避左
り。おあるりと見え。右におひきまき。前におあり。お後ふりくめて。雲間おひ
くめく電光の、とく。高波小飛ぐる。燕子にひとしく身をゆして額よりとら
くかの檀の棒をさしかざり。畜生脚を又まきゆして。あざ倒んとあつ。か
かふ。凡熊、火性短氣の獸あゆ。再三旅人、お欺りて大お怒をゆ。鼻を

あし牙をかき。眼をいじり。腰をひり。只一搦に飛ぐる。旅人、あたまで熊
を怒して疲ぬしめ。折しをゆけぬと。二歩を後下りて。かの棒をさるのべ
空よりうらあけて。熊の頭をのぞく。微塵にあゆとちりるが。熊も又眼あ
らうらして。忽ち身を躍て。おを避。棒におあるといひつ。前脚の爪をとてか
あぐりをもえんとす。旅人、おをさるれ。じか力をさめておび引あひるが。熊
の力やまらうけんつ。お棒を奪ひとる。おの力あぬりてのけさぬ。お倒れとる。その
ひぬ。お旅人、お早く刀をぬき。おかろうて月の輪のあつらをも。あつらひきしと
おしりぬむ。さむくう勢ひ猛き。荒熊、四足をちりぬ。おをあるせ。をあんといふ。声く
り。げお吼て。只一刀に息絶とる。お名剣の威徳あるべし。さて熊の死しをさる
をえとけ。刀の血をのこして。鞘おをさめ。おをよくと見え。全身の毛、鐵の針を
うえとるがごとく。四足の爪、銀の戟をうち曲らるにひとしく。小牛のおおとさあつて



何事
者
日

世に希有の老熊あり。疵口より鮮血ヲさちかたて。白雪を紅く染みぬ。
 人ハさき程よりのかひひ。氣力疲水。手足軟てくがく。雪をふくく。
 咽をうる布。雨衣の袖を忘るり。野に住熊の。おをく。
 と呼とうごち。おじやもて居。弓兒ハ。の木蔭ふ。
 であて。忙忙旅人の。始終をス居。り。
 害をさ。刀を鞘。立出旅人。ふち。
 ハ三年前の水無月廿日。木船の社。ふきや。時。妻を介抱。
 郎。此旅人。心。雪あ
 かりに。兒が。彼時。上。贈。
 もひ。り。宴の。且。且。返答も
 せ。只。款を。打。あ。弓兒。

くだる山中。あて。あひま。こと。あ。あや。
 妻。ハ。美濃國。關。の。藤川。の。ち。ち。小。年。ひ。住。ぬ。郷。士。屋。美。佐。
 高。敦。者。の。む。名。を。弓。兒。と。し。け。り。父。を。し。
 家。を。あ。岸。う。波。の。松。を。暮。の。と。え。て。か。
 ら。ぬ。國。お。身。の上。の。ち。物。語。一。席。ふ。郎。
 又。いつ。の。方。何。の。あ。獨。旅。ハ。志。旅。人。い。つ。
 後。國。球。磨。石。川。の。住。望。月。皎。二。郎。を。者。あり。前。の。年。お。身。
 あ。以。頃。ハ。物。学。の。為。志。京。都。に。寓。居。せ。折。く。や。つ。
 にも。い。え。ぬ。の。あ。途。中。あ。て。語。尽。お。ん。身。を。
 も。女。の。ひ。身。あ。て。ぬ。までの。旅。路。を。へ。て。来。を。弓。兒。
 へ。召。使。男。女。も。や。り。け。り。只。彼。木。船。詣。の。

召連めいれんなる家士いへのこころ未海津守みまづもりといふ者を。びより果して。とぬまてハッありしが。
 老年らうねんといひ病後びやうごといひ。身体しんたい衰へたる人に。此大雪おきの寒氣かんきにあたり。
 少一せいち前まへよりあくあり。屍くわいをさるるをさむる便べんもあけぬ。を俵たわにこみあり
 いひて松蔭まつかげおつぬゆきて。スセけぬハ隣むべし。津守つもりが屍くわいハ雪ゆきおろづぬぬて。
 ことらぬ。皎二郎けうにじやう雪打ゆきうちともひて。えろふ。いふも死敵してくあらず。スおんえある老
 人らうじんあぬハ胸むねをさぐり。人の哀あはれもおのが身の薄命はくめいおろちらるべ。只たださささうハ涙なみだ
 弓兒ゆまこも泣声なきこゑおありて。んむふ。こも。只ただゆりも杖柱つゑすゑとよめつる。老人らうじんふ
 へもあぬ。妻つまむらりの才さいこありぬぬ。進退しんたいもに途ちを失しひて。いふやも
 志しべさかしく。己おのれふささ程ほど。自害じがいして。お果人はるじんさおひつめて。もの。ハッ折をり
 一ひとも。彼熊かのくまおむらりさぬて。志しじ手てをさめさるるちに。郎らうをえらけ
 ぬぬ。甦醒よこせいとるるに。こも。ハ立出たちだつ。熊くまとさうらひむふを。う。こよ

りえて。あやまちあんと氣きづらひまかせ。郎らうハ風流士ふうりゅうしあるの。にあり。を
 カもつよ。武夫ぶふうの乃のふ達とつ。一ひとむひぬる。極ごくき健男けんなんあり。卒そつ尔にあるぬ。ハッこ
 おハ信しんぬ。ど。か。お。も。ひ。け。さ。る。所ところおて。め。ら。う。あ。ひ。一ひとも。知ち俱く麻まの川がはの。お。き。え
 あ。一ひとと。お。し。む。し。妻つまを。い。つ。く。へ。も。さ。も。あ。ひ。て。む。ら。ん。や。あ。つ。ら。あ。る。身みを。い。ひ
 む。い。が。い。と。い。煮に飯いひ使し女めと。あ。り。て。も。か。づ。ま。あ。ら。せ。ん。岐き岨その麻衣あまぎぬあ。さ。さ
 心こゝろと。お。お。し。む。し。を。是あ非らふ。と。の。こ。け。る。と。危あや急うせの時ときおの。を。い。ひ。を。つ。じ。さ。も
 打うつ。を。ぬ。て。づ。り。あ。と。さ。さ。ら。る。を。皎二郎けうにじやう打うちつ。て。志しじ答こたを。心こゝろの。う。ち。お。お。も
 ひ。り。ら。ハ。我われ木き船ふねお。て。ま。じ。め。て。此こ婦人ふじんを。え。一ひと時ときハ。ふ。ら。く。愛め慕むつ。る。が。今いまハ。其
 時ときと。か。あ。ら。う。も。共ともお。天てんを。戴たいさ。る。大だい事じを。身みお。お。ひ。さ。ぬ。ハ。何なにの。と。あ。し。ま
 づ。あ。り。て。る。婦人ふじんを。さ。ら。さ。ふ。へ。き。志しら。う。こ。い。へ。ど。も。か。ら。る。山さん中ちゆうお。て。女むすめの。身みの。お
 ち。り。さ。ま。よ。ふ。を。え。捨すてて。行ゆも。又また志しの。び。さ。ぬ。ハ。ち。り。さ。に。さ。ら。さ。り。て。行ゆ所ところあ

ら。ば。そ。こ。ま。で。ハ。送。り。さ。げ。て。得。さ。ま。ど。こ。心。を。さ。ぶ。め。て。ひ。ひ。り。る。ハ。お。ん。身。に
 水。ま。で。さ。り。来。む。ひ。し。も。心。ざ。も。所。あ。ら。あ。ん。そ。ハ。い。つ。く。あ。て。傳。る。や。弓。鬼。い
 心。ざ。も。所。と。や。さ。ハ。か。の。清。守。が。勇。不。健。助。こ。い。ふ。者。あ。り。善。光。寺。こ
 う。ん。近。さ。あ。り。に。住。よ。と。ア。ー。が。清。守。才。ま。り。し。く。ハ。詳。ふ。ま。れ。と。し。と
 い。ふ。皎。二。郎。い。と。く。何。あ。ま。れ。日。も。こ。や。く。水。果。と。水。片。時。も。や。く。麓。下。り。人
 里。あ。る。く。い。を。尋。ね。宿。を。索。て。や。り。く。もの。く。く。え。し。さ。ら。ふ。て。も。老。人。の。屍。ハ
 廿。あ。て。土。中。お。う。く。さん。と。と。松。蔭。の。雪。う。き。り。け。て。土。を。う。が。ち。屍。を。埋。め。松
 の。下。枝。を。さ。り。其。上。に。は。じ。て。や。り。の。志。し。と。も。弓。鬼。ハ。涙。あ。が。ら。に。清。守。が。残。せ。し
 念。珠。ま。り。て。掌。の。う。ち。お。う。さ。り。あ。じ。南。無。阿。弥。陀。佛。新。靈。頓。證。仏。果。菩。提
 父母。も。ち。と。も。お。遠。蓮。お。な。す。む。へ。と。さ。て。ま。う。さん。ハ。父。上。の。靈。魂。清。守。が。此。世
 の。忠。義。を。憐。み。む。し。眞。途。お。列。ら。ば。此。稱。美。の。内。詞。を。む。し。ぬ。し。こ。念。一

い。ぬ。皎。二。郎。も。念。仏。教。遍。を。ま。向。て。い。ざ。ま。ら。く。も。や。く。麓。お。う。さ。ら。ん。と
 い。ひ。つ。清。守。が。残。せ。る。兩。刀。并。お。包。を。さ。り。お。の。が。包。お。う。り。合。せ。て。肩。お。う
 け。弓。鬼。を。扶。て。走。り。ゆ。え。ん。と。し。と。る。折。し。も。雪。顔。の。音。雷。の。こ。こ。ひ。と。き。雪
 卷。風。を。吹。お。ち。て。怨。眼。く。み。あ。と。ぐ。吹。倒。れ。ん。ら。り。あ。れ。ば。い。そ。う。し。く
 弓。鬼。が。手。を。さ。り。て。巖。の。陰。お。身。を。か。め。風。の。過。る。と。ま。ち。り。る。所。お。か。あ
 こ。の。木。蔭。う。り。あ。や。し。け。あ。る。荒。男。あ。ん。あ。ん。ぬ。出。て。こ。あ。を。う。が。ふ。さ。あ。り。て。
 ち。り。ぐ。と。あ。め。み。来。其。扮。作。い。ふ。と。あ。れ。ハ。峯。菜。も。て。編。る。雪。帽。子。を。か。ふ
 り。蓑。を。著。蒲。葍。手。を。か。け。品。管。の。腔。巾。を。ま。と。ひ。紫。緘。を。む。し。ひ。様
 を。ま。さ。き。山。刀。を。お。ひ。一。箇。ハ。矛。を。さ。り。一。箇。ハ。鐺。を。さ。げ。さ。り。皎。二。郎。雪。あ
 り。お。ま。り。え。て。大。お。あ。や。し。と。弓。鬼。を。背。後。お。か。こ。ひ。声。あ。り。り。に。い。ひ。り。る。ハ。此
 山。中。お。盗。人。お。わ。く。住。て。志。む。く。人。を。害。さ。る。は。曾。少。を。ひ。ぬ。汝。等。が。あり

さぬをえらり。山ヤマの龍リウの盗人トウジンふまきさぬ。我われをよあつ子の旅人リョウジンとおもひて。到いたりて。

そんをえらり。かこをえよ。手て負おの荒熊アラクマをえ。唯ただ一刀いちとうふえとめさる。武夫ムツ

あるぞ。は汝等なんぢらが頸くびの皮くわ。熊クマの皮くわよりあつさや。速はやに逃のがれ去されん。後のち悔くわいせん

ぞといひて。刀かたなの尻しりをえ。さぬふら。鞆つらをふざり。彼等かれらは。さぬ。只ただ一打いちうち。

眼まなこをくらうてひくさ。彼者かれらも身をかめ。腰こしをうて。旅人リョウジン必かならずや。まうむふ。我われ

とらふ輩たぐひ。山賊ヤマゾクのさぐひふあふ。此山このやまの麓ふもとに住すま獨戸ひとりどあり。前まへ程ほど此この峯たかねに。穴あな熊クマ

を追出おしだし。槍やりと突つ損そんにて取とり。ぬ。そのあをえ。以来いらい。さか。

尋つるが。今いまおん身み黒くろ。雨あめ衣ぎぬを著まて。巖いその陰かげに。居かむ。熊クマを。

ぐへて。かくろ。かひよりしあり。かあふ。あやし。むふ。とありぬ。今いまうけむ。ぬ。熊クマ

をえとめ。とのむ。し。が。その實まことを。付つく。ふ。皎けつ二郎にじろを。すて。や。く

心を安やすん。其その方かたが。守まもる熊クマ。ふて。あ。今いまか。こ。て。あ。う。り。ぬ。

として石群いしぐむの間まを指さし。け。ぬ。獨戸ひとりど等ら。信しんせ。を。あ。り。か。こ。を。え。ら。り。其その言ことを。

ぐ。大熊オホクマ倒たれ。死し。て。あり。ぬ。あ。人ひと古ふるを。あ。り。ひ。て。殺ころす。皎けつ二郎にじろを。つ。ぬ。

打うちま。り。旅人リョウジンの姿すがたを。え。せ。ば。よ。し。う。く。も。や。さ。る。若人わかひとあ。り。何なに等らの

術わざありて。手て負おの荒熊アラクマを。か。安やすくと。あ。む。し。を。半はんは。は。く。熊クマを。り。を。あり

づ。ひ。て。え。ら。我輩われらと。に。手てふ。あ。多おほく。る。老熊オウクマあ。る。を。只ただ一人ひとりの力ちからを。以もつて。殺ころ

む。ふ。す。よ。も。九人くじんふ。て。は。な。じ。山やまの神かみ我等われらが。苦く辛しんを。憐あはれ。む。ひ。て。權けん小姿こすがた

を現あらし。熊クマを。殺ころす。む。あ。あ。あ。と。額かぶたを。さ。り。つ。ひ。額かぶたを。雪ゆきに。ゆ。つ。め。て。礼れい

を。ほ。當あたり。を。合あて。て。ま。を。え。ぬ。皎けつ二郎にじろを。し。さ。を。え。ぬ。以もつて。我われハ山やまの神かみ

ら。を。遠國とんごくより。来きつ。る。旅人リョウジンあり。案内あんないあ。ぬ。山やま路みちふ。や。ま。よ。ひ。夜よに。入いる。

へ。ふ。雪ゆき深ふかく。殊こと更さら足弱あしよわを。と。も。あ。ひ。ぬ。ば。る。を。艱くわん苦く不ふせ。なり。て。せん。ま。え。

じ。我等われらを。た。守まもり。て。麓ふもとに。下くだり。一宿いちしゆくを。え。ま。家いへを。と。も。と。め。て。得え。せ。ぬ。は。力ちから

小彼熊をあるまへへさきけりふこの獵戸等の命をきて大ふよろこび。は
をこゝろにの輩のおわいある福あり。今命らぬのをいせとて安をといひて。
あやあん緒をつけて襟をふらりさげさる。小笛ををりて吹あはせけぬ。
かしてより。おほじき母ある獵戸三人。火把ををりてじてもせあつまりぬ。
の身人彼等をふむひて。おろぐのはをわたりぬ。此者ども、大ふよろこび
をわめて。皎二郎があつく礼をさし。いささめへ案内をまわらせんとて。一箇
火把をとりて前へとち。一箇は弓見を脊へ負ひ一箇は皎二郎が櫓をを
りえめ行李をとりてせぬ。残ぬる者は友首を以て。熊の四足ををり。皎
二郎が熊をさくひさる。かの櫃の棒をむろひさりて。櫓の櫓をこゝり。あはして熊
をふあひて後へつさ。皆は一同に林をさして急ぎ行ぬ。初は皎二郎が荒熊
を志とめらハカ量のもどれ。武を氣をの達に。さるのこはあはれ。熊を殺す

とち刀ハ則ち彼壺斬の宝刀があぬ。劍の威徳がふよりて。さむらうの猛獸をを
とちあ危き一命をまぬぬさる。あんが寶東海の黄公が虎を獸と
る金刀。吉備の縣守が。虬を斬し。靈劍あり。をさくおる。べうをさす。のちこ
れをは人感じあへり

第八段 扇をかきつけさる歌紅糸をひく事

かくて皎二郎が獵戸等にすれ。碎瓊乱玉をふと分て。たをいさげらるか
の獵戸等は首を黒く血眼をて。山猿のことを荒男があぬ。志は久りて老實
あて。皎二郎があ人を泳く。たさぐ熊をむひさる。ことをあみさひい
ひ出て喜び小女をえり。山路が足をいさぬ。いとええて。難があ
女子の才をて。かる雪國の旅を志す。いとさきとふことをあんが又は熊と
さうひひして。さる疲れをひつらん。小女ハあんがの妻をて。あはれや妹をて。あはれや

善光寺詣やあふ年若さんくおハ時特のそふけりあど。ひもてゆた。二里を
うも過一とかなえて。やしく林鹿おつさぬ雪ハまもくつよくうくさぬれハ。猶戸
等田家ある方に走り行雪車を二ツかり来て。方人をよせ。聲をそりへて
雪車歌をうそひつ。ひきゆくま歌ハ

深山清水ハ底くくまむが君のころもそりうり
山で小柴を志むるがごとくこよひそをそめを志めありそ

こごみぐる声してうそやををし。かそ又一里をうりもさこんとおもた。やしく
一族の人家あらぬわうりぬ。故二郎此あうりをえらるに家ハおわくあぬ。旅
店とおゆ。まハ一軒もあく皆うちまらおひらる小家おて。深く雪にうらむれ
ぬ。いづれの家ハ案内してやごまうと。いぶうおもひらるふ。あふふ年のころ五十
ころの猶戸。こまよくつうりるが。まごまうりていふハ。こまのらぬ何とおもふ

ぞ。あぐがあむら家ハせぬそくに風とゆて寒く此客官等をやとまへき便
あ。上の村の醫者殿の空坐敷をかりて。客官等をやじアさんとおもふ
が。いよとて一箇が答て。かの醫者め。おのれ獨富おわらうて。人ハ物に
みまらぬあぬハ。心よくうげらハ。よさうとゆふ。そ氣づひまを。彼ハ欲深きもの
あぬ。其報に熊の肉を贈といへ。速おけひくべ。こまに家をのころのそあり
よろのもの
夜具あてハせんまへしといへ。こまをぬふさめよ。よろんといひつ。又雪車
をひきて。まよそ十町をうり行長屋門をうまへと。大家の前ふまうり
てかの五十ころの猶戸。まつ内おつとむうありて出来り。よし。我富妻
那尊者の舌をうそきて。速おけらせぬ。熊ハ源二が所おあつけ。雪車
平五がふおけいひて。故二郎等方人を雪車よりおし。いごそあていへ
残りの老ともハ色をそりて。客官我等ハ。こま。こまていへ。おやまを

飢ふ堪らぬる折あぬがむことを得む。ふをうちらひてら見ゆあてりる。
 めあぬぬらひ物あぬが氣味よくむとてくむを餉の残りたるをまじくして
 飢をよめぬ相見故二郎がそちちくすうてつひりる。前の年木船
 始てまこえし時、郎のみあひりる。次女あめで、心をあやはぬるが。今日ハ又あが
 とくくひむむしをえて、猛き健男あるにめでまどひぬ。前の年の心ハ化心あり。
 今の心ハ真心あり。其の意いふとあぬが。あしけぬと。まてむぬりとして、
 望まぬ父左衛門官領持氏公の隠謀ふるむし。足柄山おて賊の爲に殺ぬ家
 を没収せしむし。さまらへて旅お赴しまでの始終浦ちが忠義の志
 まうりしうまで。いぬやうふくう。いふして彼賊を尋ぬぬ。父の仇を報ん
 ものと心やけぬむむし。女の刃のかけさか力もよむ。くちをさうも
 ひし。あくにつさあがうへて。ものをむもんよう。自害して死んを覚悟とさハ

めぐる折。ち。ゆりあく郎あめがらあひ。荒熊を殺しむし。あまをえて。このち
 あく。うね。さたへむ。自害をまうりて。そちにあまむ。ハあありつ。いぬも海をえ
 ち。とがむむして。妻を妻とゆむし。父の敵を尋ぬ。仇を報てむぬりし。
 慈悲を情ど。ああがちふ願をると。膝の上にもろびむつる涙をのどひつ。い
 故二郎。只さしうつむきて。あしハ返答もせざり。はるが。やありていへる。けお途
 中の行合あち。このむとあぬが。あ刀ををぶる者のひくべきな。ハあぬが。一つあ其
 賊を尋出さんこと。雲をむさう。ごじし。二ハ勝負ハ時の運あぬ。ハ利の劍あり
 ら。又うり打おあんもたりある。むらむ。ちつがぬ命を捨る。人ふもをうてさ
 らひあり。さうあさこれとを。あげやうふあぬが。危きことハけして。あ
 かつぬ。こてあてあふ。何おあぬ。このまらじと。思の外ハ臆し。さる答を。聞て
 ら見興醒敷あり。比奥至極の答り。おん刃あ刀を。おあるうら。まじ。ハ武夫

の原をこつきまへつらん事よりて八百姓商人を命をまらうる男のまけト
 魂あがむや。武士をまぬひあがり。女子に大事を語せて。命小管ぬるを
 のまらじとの一言。比與とやいせん。臆病とやいせん。それすて。何いせんか。い
 とともあがり。さ命ありて。涙を袖ふりさそ。ひ傍の刀をとりて。拔こ
 出。ちり。自害せんとす。えけるを。皎二郎。や。氣短し。とや。あり。あふ。あといひ
 て。刀もさそ。今のごとく。まげあう。いひ。と。流き。縁故あり。さむり。あひ
 つ。あ。底を。入る。入。せん。ま。は。つ。ま。を。語り。ま。い。と。の。薄命の
 始終を。枝葉も。残さむ。あ。や。ふ。もの。が。り。あ。が。ぬ。父の仇を報と。あ。三。年
 前。小。家。を。出。て。諸。國。を。めぐ。り。百。折。千。磨。の。辛。苦。を。い。と。を。い。と。さ。あ。小。女。を
 久。ち。あ。ふ。心。を。と。と。い。て。敵。の。行。方。を。尋。ぬ。ぬ。と。い。今。に。あ。い。て。あ。ぬ。さ。ぬ。只。い
 を。愁。ひ。て。寝。食。も。安。う。と。む。旅。寝。の。うち。に。む。ふ。一。三。年。の。月。日。を。お。ろ。り

り。ろ。が。宿。志。を。遂。さ。ら。う。ち。い。つ。ま。で。ち。家。小。飯。を。ま。と。心。小。旅。言。陸。奥。の。と。を
 ま。で。も。尋。ぬ。ん。と。も。ろ。け。き。旅。路。を。と。ろ。ろ。ば。て。こ。ま。で。ハ。ま。う。で。来。つ。や。つ。が。ぬ。宿
 志。を。と。げ。て。後。は。お。ん。の。父。の。敵。を。も。と。づ。出。て。打。得。さ。せん。お。ん。を。妻。と
 する。か。我。為。あ。も。舅。の。仇。あり。べ。う。で。う。よ。そ。ふ。え。あ。さん。や。也。又。久。り。打。あ。も。あ
 ふ。あ。だ。拙。き。運。と。あ。さ。め。て。我。を。さ。あ。あ。と。以。吊。香。花。を。も。ま。向。て。さ。か。く
 互。小。語。り。あ。ひ。て。え。ぬ。あ。の。薄。命。と。ぞ。し。此。由。念。に。こ。そ。心。あ。も。あ。ぬ。情。あ
 する。ハ。ア。つ。ぬ。と。い。ひ。て。打。志。あ。る。ぬ。ば。う。見。ハ。い。ぬ。を。す。て。驚。き。そ。ぬ。と。あ。ら。む。女
 の。あ。さ。き。心。り。あ。ぬ。こ。と。を。や。せ。ハ。い。と。へ。あ。る。さ。せ。ま。へ。と。い。ひ。て。助。太。刀。の。さ。の。ら
 ち。あ。ひ。し。と。且。奇。縁。の。む。を。い。ぬ。こ。と。を。い。ひ。ま。う。と。い。ひ。ぬ。皎。二。郎。を。い。て。い
 く。前。の。年。木。船。あ。て。お。ん。の。忘。ぬ。を。さ。る。扇。を。ひ。ち。ひ。と。り。て。え。に
 信。儀。あ。る。あ。ひ。深。川。の。も。と。に。こ。そ。宿。せ。む。い。の。神。ハ。ア。マ。マ。せ

ちよふ歌のたきつけあはしち。ともにかくさきさへて。岸の水ふよよ此信濃路を
 とどろき來て。あはし深川のよをみに。あがぬあふべき宿せめて。めて月老の紅糸を
 むきひかきむしあふん。誠是奇遇あり。あふのえしあふむとへむら見打
 穿て。そは妻が筆をもむし歌のたき。腰元等にとりせつる扇あり。郎の目より
 じと露むらりむかむはざりき。拙さ筆のむらじさよといひて。顔をとくぬあふ
 おも。初皎二郎詞を正して。いそく夫婦のくさひ人の大原あり。媒あはして
 私あさむむら。礼あはして。虧る所あり。互に本意をとけて。後媒人をえむびて。
 婚姻をそのふじ。そぬまで。兄弟ともおなすぬよといひて。雨露むらりも。みざり
 がいささこへあふざりけり。皎二郎又いそく。我熊ふ出あはし。時避のぐるへさるあ
 かりゆ急せんまふく。さうひよぬど。今おもへ。危ささうあり。も熊の爲ふ一命
 を失ふ。つゆの命を以て。仇を報べき。あは恙ありし。も畢竟。父尊重の。

守護。むよ由急あふんといひて。行李のうちふらさ。位牌をさう出して。志を
 らく拜。はね。ら見むも。にをぐさけり。時に鳥の鳴声をちこち。す。皎二郎と
 ちて。傍の窓をひらきて。えやぬ。べつの間。あやうや。て。月光雲を。ひら。雪
 虫の飛を。えむむらむらりあき。さうあり。えをうりて。窓の戸を。あ。つる折。は
 外のくさにと。は。火の光りひらぬき。歎嗽の声を。し人の足音を。皎二郎窓の戸
 を。あ。ひ。て。ひ。ら。に。え。に。年。の。こ。ろ。五。十。を。よ。お。と。還。と。ん。と。お。か。く。頭。ハ
 斬髪。あ。て。白。髪。生。交。り。刃。の。丈。ハ。ひ。さ。く。身。の。と。長。く。押。と。ぬ。て。唯。狗。犬。を。え。ん。と。と
 身。ハ。紙。子。に。錦。の。火。打。入。る。外。套。め。く。もの。を。著。緑。色。の。袴。巻。て。つ。ゆ。の。影。を。え
 人。奴。僕。三。人。小。棒。を。も。と。せ。大。把。を。と。り。せ。ご。う。う。あ。石。小。杖。を。つ。き。あ。は。じ。て。い
 の。く。あ。を。え。ん。あ。ら。う。用。心。む。こ。ら。う。あ。る。さ。ぬ。あ。う。皎。二。郎。お。も。て。く。前。小。僧。の。寺。を
 こ。ハ。殿。屋。の。家。あ。ら。う。と。い。ひ。し。が。か。の。老。人。ハ。あ。は。じ。あ。ら。べ。富。る。者。の。心。が。け。ハ。格。別。あ。ら。う。



傳
卷
之
四

富りるとそ愛ふ又大左郎玄海賊首とあり大蛇を命と称すと足柄山小
 任一が。かこを逃て下野國おいら黒髪山の岳窟ふかられ住て暴悪や、
 のうおひく小賊をあつめて。己お三十余人山ごもりを。かの旅人お揚作とる。盗
 人等も。まててお大蛇を命おとさる。お老ども。輟菴で熟睡する所を捉へ布を
 以てお眼をつみ。輟子にせしめ。さびしくかきみでかけ出し。家僕等大蛇あ
 とをまててひて追あるを。尽く打散して。飛がごとくに馳行りる。輟菴ハ鬼
 さんぐおありて。遁生んカもあ。輟子のうちおらう。居らう。かて盗人ども。昼ハ
 山林おかられて。やをみ。輟菴おも。狼あ。あへ。夜ハ夜と。しお走り。やうく三日を
 過て黒髪山おいらぬ。輟菴ハ輟子のうちにありて。づづお水行る。や志
 ら。おさ。に上り。低きに下。唯嶮。さ。を行。おお。ひ。松吹。風。梢。を
 お。谷の水音。物。凄く。多。お。深。山。お。し。お。人。と。お。ひ。今。も。命。を。お。

うらうと羊の歩に異あ。を賊等ハ。岳窟のうちに輟子をかき。を。輟
 菴を引出し。眼をつみ。みる布をとり。ひご。お。つ。め。お。さ。て。皆。奥。の。方。へ。行。ぬ。
 輟菴ハ唯惘然として。夢お。夢。見る。お。お。ひ。を。し。魂。飛。騰。言。さ。え。て。人。と。う。ハ
 あ。り。じ。が。や。う。く。頭。を。あ。げ。て。四。方。を。顧。る。に。い。づ。れ。の。所。と。お。る。を。あ。ら。う。を。只。廣
 大なる岳窟あり。うち大なる草屋あり。槍斧。行。引。鋸。前。を。刀。の。と。く。ひ。を。い。く
 む。く。と。も。あ。く。か。さ。り。傍。お。鉄。器。を。ま。え。て。松。を。こ。も。を。火。の。光。り。あ。き。う。う。し。て。
 槍斧。お。ろ。り。お。ひ。き。と。光。り。て。る。る。お。さ。る。か。の。毛。を。お。ち。ぬ。奥。ハ。深。く。て。
 四五軒の小家を。こ。て。つ。つ。ぬ。お。お。火。の。光。り。明。あり。こ。お。を。え。お。お。人。と
 も。獸。と。も。い。き。う。く。あ。や。げ。ある。姿。の。お。さ。火。の。め。ぐ。り。お。居。あ。ら。う。お。頭。の。
 ハ。松。葉。を。か。き。み。お。せ。る。ご。と。く。腮。の。鬚。ハ。枯。草。を。刈。残。せ。る。ご。と。く。片。
 の。や。う。ある。眼。つ。き。野。楮。の。や。う。ある。鼻。つ。き。狼。の。や。う。ある。口。つ。き。お。お。る。お。

あれが益驚きこゝれ妖怪の栖すまや。天狗てんぐのかくれ家がや。さもあつた
 の地獄ぢごくあるじとてかひ。うちつゝあつて居ゐり。がまぢりありて。色里いろり
 男をとこ走り出いで唯ただ今いま寨主さいしゅこゝへ出いて。草屋くさやのちちうく。襦あはせを
 几こゝろをまゑて。お侍あひまさぬあり。あどあく出いて。人ひとをえらるに。外うへの丈つげハ六尺むくハ
 過ま相あ貌う兇あ惡うや。て。刃やいば六む熊くまの短た表はを著き。鹿しかの鞋くみ子こをまき。おまを刀
 をおび。二人ふたりの美女みづよおまをひくめて。襦あはせのうへに。踏あ居ぐ居か。此人こゝろハ乃是な賊ぞく
 主しゅ大だい蛇だを即すなはちあうけり。お爺おや小せう賊ぞくをじて。鰻うなぎ養やうを面め前ぜんお引ひ出ださじむ。鰻
 養あんハうあるめふるあんとおもへるさぬ。おて。胸むねを蛙かのこころに。うごけ。目
 ハ魚うをのこころに。さうめりして。うこみをりじ。お爺おやへひらる。鰻うなぎ養やうとゆらん
 汝なんぢ縁ゆかり故ゆかりをまぢして。さぞお怒おこり。さつて。人ひと汝なんぢをらふむじ。別べつ笑わらふあ
 を。我われハ日ひ鳥とり目めの病やまを。怒おこり。ひ。昼ひるハ物ものを。人ひとぬども。黄くわん昏こんおひりりて。八や全ぜんく
 へる。こゝろあつて。涙なみだの出いることおひとじく。眼まなこ中ちゆう針しんを刺さぐ。こころに。痛いた
 て。さへ志しのびぐじ。我われハ是こゝろ賊ぞく主しゅあり。凡おほ盗と人ひとハ。昼ひるを。い。めて。夜よるを。こ
 とむものある。鳥とり目めを。痛いたて。何なにせん。かひい。こゝろ。我われ生なれ。て。う。目め
 涙なみだとふもの。只ただ一滴ひとしずくも出いて。こゝろ。さ。に。眼まなこ病やまおよりて。涙なみだの出いること。
 ちつとも。ぬり。さ。こ。眼まなこ療りやうお妙めうを。こ。あ。こ。は。を。及および。い。也や。
 小せう賊ぞく等らをつ。は。して。む。こ。り。我われを。に。も。汝なんぢを。害がいする。心こゝろあ。け。ぬ。を。を。
 安やすん。ど。て。權ごんこ。ふ。さ。う。我われ此こゝろ病やまを。療りやう治ぢせ。よ。我われ病やまを。平へい愈ゆせ。む。速すみ
 にも。あ。ち。久くを。べ。し。も。又また我われ命いのちを。を。む。う。が。地ちお。頭かぶを。て。ぬ。を。返かへ答こた
 いら。ふ。とい。ひ。て。は。眼まなこあ。さ。う。あ。い。は。ん。こ。と。白しろ眼まなこ。を。形かたち勢せいあり。鰻うなぎ
 を。ち。め。て。い。を。う。じ。く。い。ひ。ら。る。命いのちを。に。と。を。け。こ。ぬ。う。が。療りやう治ぢの。こ。も。や
 が。水みづ力ちからを。尽つくして。つ。う。ふ。さ。う。及および。と。を。や。う。く。心こゝろあ。ち。つ。さ。け。ぬ。が。を。郎らうと。ぬ。を。や。て。

憂

憂

憂

ろこびちろ近くちろなるちろ方ちろぬちろといひて床の上ちろにのちろおちろじちろめちろ病ちろのちろ候ちろ子ちろをちろろちろかちろじちろめちろは
 蝦あん菴あんをつあんくあんむあんひあんより。且まづ脈ちゆうをちゆうおちゆうしてちゆうあちゆうむちゆうくちゆう考かうへかう指さしをさしもさしつさしてさし目ま皮くわをくわひひ
 眼がん中ちゆうのちゆう候ちゆう子しをしよしんしくしええをえをえりりてり退たいきき指さしをさしろろみみてみ膝ひざのひざ上じゆうにじゆうちちまま眉まゆをまゆまます
 めめてめひひ出しじしりしらら夫それ人まうふまう双まう眸まうあまうるまう天てんにてん兩りゆう曜りゆうありゆうるりゆうがりゆうこりゆうこりゆうくりゆう一いつ身しんのしん至し宝ぼうにぼうしして
 五ご臟ざうのざう精せい華かうをかうあかうつかうむかう日じつ月げつにげつ一いち時じのじ晦くわいとくわいあくわいるくわい風ふう雲うん雷らい雨うのうままをまああへあこ
 眼まのま光くわう明めいをめい失しつをしつるしつこしつとしつあしつるしつ四し氣き七しち情じゆうのじゆう害がいをがい受うけうるう所しよ之し目めハは肝かん小せう通つうドと血ちゆうをちゆう
 得えてえよえくえ明あきありあき肝かん經けいハは木きにき屬ぞくしてぞく五ご輪りんのりんろろちち風ふう輪りんとりんもも風ふう輪りんのりん歌かにか肝
 氣きのき虚きよ傳でんへでんてでん眼がん中ちゆうにちゆう入いれバは昏こんとこんしてこん涙なみだをなみだ出だしだ滴たつ窮きゆうふふくふへへりり俗ぞくにぞく鳥とり目めと
 稱しやうるしやうものしやうにしやう二に疔ぢゆうありぢゆう一いちにいち高かう風ふう雀せき目めく二ににに肝かん虚きよ雞けい盲まう之し雀せき目めくハは黃わう昏こんにこん物ぶつをぶつここめ
 灯とうをとう點てんをてんろろにろ至してしハは全ぜん物ぶつをぶつええんえん是こ乃の肝かん中ちゆうにちゆう熱ねつをねつ積つみ腎じん水すい衰おとろへおとろておとろ肝かん火
 をせい制せい伏ふくをふくるふくこふくとふくあふくてふくハはささらさるさがさおさえさ之し雞けい盲まうハは酒しゆ時じ黃わう昏こんにこん至してしハは少せうくせう物ぶつをぶつここえ

どど灯とうをとう点てんをてんろろにろ至してしハは全ぜん物ぶつをぶつええんえん是こ乃の肝かんのの虚きよありあ今いま寒かん主しゆうの
 目め疾しやくをしやくろろかかびびええんえんにに惡あく血けつ金きん井せい瞳どう仁じんのの水みづ内うちにに灌かん入いれこことと洪かう水すいのの井せい中ちゆうに
 流りゆう入いれろろちちののここととししかかのの二に疔ぢゆうののここととひひととおおほほじじりりもも甚しん難なん疔ぢゆう之し外がい寒かん邪じやをじやふ
 めめてめ五ご輪りんをりんををここととああひひ内うち熱ねつ毒どくをどくああつつめめてめ五ご臟ざうをざうややりり寒かん熱ねつおおととかかひひて
 惡あく血けつ眼がん中ちゆうにちゆうああつつままりり此こ疔ぢゆうととああるるおおととろろくくハは深しん山さん小せう住じゆうむむひひてひ雲うん霧き務むのの濕しつ氣きを
 けけ獸ぶ肉にくをにく食く熱ねつ酒しゆをしゆ飲のむここをを過か度ど一いちむむひひてひ内うち小せう毒どく氣きをきここととく
 久くああららののここととああららむむ常つね小せう怒どここととおおおおくくしてして肝かん經けいをけいややががりりむむひひああんん此こ疔ぢゆう
 ををああららむむけけてて内うち外がい併へい傷かう水すい母ぼ喪さう蝦あんのの疔ぢゆうををつつふふももつつとともも不ふ治ぢゆうのの難なん疔ぢゆう之しかかろろく
 のの眼かん科かのの書しよににいいままここ此こ疔ぢゆうののここととをを説せつをを偶ぐ放はう光くわう現げん瑞ずい經けいにに載ざいりり也
 急いそにに雀せき目めく雞けい盲まうののここととひひとと誤あやままつつ者ものをを布ふすす也也此こ疔ぢゆうおおてて十じゆう日じつをを過かすすハは全
 くく盲まう人じんととありありむむふふべべ子し夏か左さ立たつ明めいがが患わづぢぢううききににありあり危あやししとといいふふ太たい郎らう

これぞつて教へて汝が説ところ甚明あり。我ハ唯マテ常の多目とおもひ
て。かろぐし心得ぬ望らくハ汝が術を以て。我此患を去るべし。平愈
らあり。貴もく賞を乞ふ。緞菴いもく。寨主の難症を去るべし。術外
にあし。只我家に蛮人傳方の秘薬あり。蛮名を。アラアテク。アノマルダ
と稱す。我家においてハ離婁明晴散とあつく。此奇方をもちぬ。速
に平愈あるべき。その薬劑のうち一種甚得ぐ。きものあぬむ。急に
調合せしむ。頭をうききつ。いへば。太郎打中て。その得ぐ。きものいふハ
何れのものぞ。凡人間世界にあへき物あつ。我術を以て得ざる
といふ。そあり。緞菴いもく。腹籠の子をとる。胎衣とくもに鍋中に
煮て肉醬とあり。胞子醢とあつけて。薬に和し用也。これ得ぐ。き物
あり。太郎呵ら打笑ひ。得ぐ。きものいふハ燕の子安貝。火鼠の衣。
さもありハ閻羅大王の腦醬。阿羅仙人の生膽。おもありん。おもひ
しに。それハいも安き。こありとひ。さきつ。ひて。心き。こる小賊を
とび出し。汝明日より七日を限り。子女を尋出して。腹籠の子をこ
来れ。かあり。ぞおこ。こるあり。おご。こるに命ト。緞菴ハ酒食をあへよ
く。や。ぬ。めよ。といひ。又美女。おまをひ。く。お。奥。ふ。く。入。け。ぬ。ば。緞
菴ハ。吻。と。め。息。を。つ。き。て。甦。醒。と。る。こ。ち。ー。け。る。と。ぞ。

あつて

優曇華



